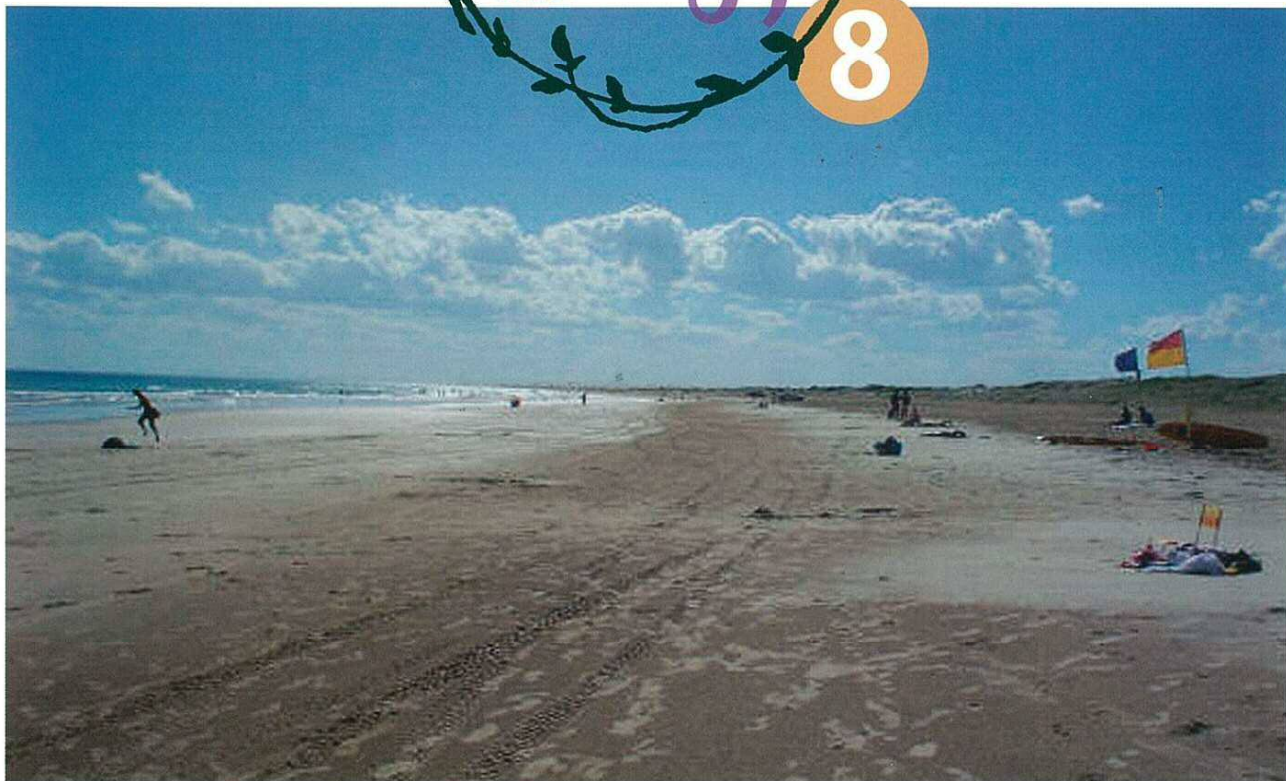


南無阿弥陀仏は
私のいのち



〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>
発行人 岸本 秀一
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



暑い季節が来ると、この歌を思い出す。幕末から明治にかけての狂歌師であり戯作者でもあった飄々亭泉成の辞世の句である。句碑は西徳寺の境内にある。次から次へ、人は生まれ、忙しく生き、消えてゆく。

そんなことを感じていたとき、上橋菜穂子(うへはしなほこ)氏のインタビュウが放映されていた。氏は本年の3月24日、児童文学界のノーベル賞といわれる国際アンデルセン賞作家賞を受賞した。児童文学作家、ファンタジー作家、SF作家であり、文化人類学者でもある。受賞の折には「生まれ落ちた世界で一生懸命に生きる人々の姿を描こうとしてきた」と話された。先日の放映を何となく観ていて、残った言葉がある。

「多様な価値観」「善悪は描かない」「固定化する事はこわい」の三点である。

いそがしや 廻り燈籠の人影は 津くるともなく 出つかくれつ

多様な価値を包摂する、あるいは多様な価値から成り立つ用きを、ナムアミダブツと教えられているのではないか。今求められるのは、多様な価値観の共有である。

また「善悪」については歎異抄に親鸞聖人の仰せとして、『善悪の二つ総じてもて存知せざるなり』とあり、「固定化」については仏教の旗印である三宝印に「諸行無常(この世の現実存在はすべて、すがたも本質も常に流動変化するものであり、一瞬といえども存在は同一性を保持することができない)」とある通りである。

上橋氏の言葉を通して、この一瞬に生かされることを喜ぶ。

「本物は続く、続けば本物になる」 “出かけていく聞法会30周年記念大会を終えて”

去る6月14日(土)、天候にも恵まれ、浅草ビューホテルにおきまして「出かけていく聞法会30周年記念大会」が約300人の参加者のもと盛大に開催されました。

午後2時、開会宣言の後、岸本住職を導師として法務員と随喜出勤者による勤行。その後、岸本住職・酒井眞一責任役員・竹内乾一郎実行委員長よりご挨拶がありました。

岸本住職からは「門信徒の力で30年間続いてきたこの聞法会。人に求められれば、何処へでも出かけていき、そこで聞法会を開いてきました。「本物は続く、続けば本物になる」といわれた方がおられますが、これまで共に力を合わせてやってきた歩みが、今後どうやって次のステップに進めるかが問われている、それがこの記念大会ではないでしょうか」と呼びかけられました。

ご挨拶の後、大谷最高顧問からご法話をいただきました。お釈迦さまの説法であきらかにされたいのちは「南無阿弥陀仏」であり、弥陀の本願という言葉でいのちの根本があらわされているともいわれました。

十数年前、あるご門徒の葬儀を勤めた際に、出棺を迎えたそのとき、お嫁さんが菊の花を手向けながら「お母さん、これまで幾度となくお母さんと呼ばせていただきました。お母さんのお陰です。本当に有り難うございました」と合掌されたお姿を拝見して、拝まれる方と拝む方の姿が一つになった、そこにいのちそのものにふれていく世界があったことに気づかされたと言われました。いのちとは分析するものではなく、自分の自我を主張するものでもない。出遇いの中で「ありがとう」といえるようないのちの尊さを、弥陀の本願という言葉で表されているのだと示されました。

与えられた人生の中で、最後は愚痴になりお礼の言葉もない私たちに、これまで支



えてくださったことに気づかされ、「ありがとうございました」といえる世界を開くのが弥陀の本願だと教えてくださいました。

次に祖父江佳乃師から『節談説教』をご披

露いただきました。親鸞聖人は9才で出家・得度され、比叡山で約20年間の修行に励み、吉水におられる法然上人との出遇いを通して、阿弥陀仏のご本願こそが真実のみ教えであることに感動され、一般民衆と共に南無阿弥陀仏の教えを聴聞された情景を思い浮かべるように語られました。

当時の帝、後鳥羽院の寵愛を受けていた女官が、法然門下である住蓮房・安楽房に出遇い念仏の教えに帰依したことによって、後鳥羽院の逆鱗に触れ、住蓮・安楽は死罪、法然上人は土佐国、親鸞聖人は越後国へと流罪になった。法然上人の身を案ずる親鸞聖人に対して、「これも阿弥陀様のはからいである。流罪の地でお念仏のみ教え



を届けて欲しいとの、阿弥陀様のご催促である」と諭された、法然上人のお言葉を感動的に伝えら、流罪を機縁として再出発された親鸞聖人のお姿を表現されました。

休憩を挟んで、いよいよ西徳寺合唱団「エコー」の演奏会が始まりました。朝田祐子



先生の指揮のもと、岸本住職と坊守も参加してのコーラスは「恩徳讃」を皮切りに全7曲を演奏されました。最後の曲「真宗宗歌」は「弦楽四重奏」のみなさんとのコラボレーションによる演奏となり、ひと味違った醍醐味がありました。



朝田先生の独唱は「歌の翼」「タイム・トゥ・セイ・グッバイ」の2曲を熱唱、その美しい歌声に感動し、開場は大いに盛り上がりしました。



「弦楽四重奏」の演奏は、エドワード・エルガー作曲の「愛のあいさつ」、続いて古き良き時代の「懐かしのヒットメドレー」をテンポよく奏でられ、最後にアントン・ドヴォルザーク作曲の弦楽四重奏曲第12番「アメリカ」(第1・2・4楽章)を演奏され、来場者の皆様はその素晴らしい音色に聞き入っておられました。



演奏会が終わり、お待ちかねの会食になりました。今井正之責任役員の発声で乾杯、洋食のコースで食事が運ばれ、皆様に喜んでいただきました。食事の合間に5ブロックの会長(中央・本間明様、城東・加藤廣様、城南・国分尚三様、城西・笠原紀一様、城北・関川恒雄様)が壇上に集まり、代表で本間明様よりあらためてブロック聞法会への参加を促すご挨拶がありました。



午後6時30分、司会者による「閉会の言葉」をもって、約4時間半にわたる記念大会もお開きとなりました。長時間の行事にもかかわらず、参加者の皆様からお慶びのお言葉をいただきました。これもひとえに竹内実行委員長をはじめ25名の実行委員の皆様、また各ブロック役員の方々のご尽力によることと思っております。そして何よりもご来場くださった皆様方のお陰と感謝しております。



これからも「出かけていく聞法会」にご協力いただきますよう、宜しく願い申し上げます。誠にありがとうございました。(木村 専正 記)



「30周年を機縁に始めよう」 評議員会総会 開催

去る6月22日(日)、午後3時より西徳寺本堂におきまして「平成26年度西徳寺評議員会総会」が開催されました。来賓として責任役員の酒井眞一様をお招きし、評議員23名参加のもと行われました。

竹内乾一郎会長からは6月14日(土)に行われた「出かけていく聞法会30周年記念大会」に対する御礼のご挨拶があり、岸本住職からは「30周年記念大会を機縁として、仏教という枠にとらわれず、いろんな方々とご縁が結ばれるような活動を試みたい」といわれ、酒井眞一責任役員からは「この度の大会を経験し、あらためて西徳寺のエネルギーを感じた」と述べられ、西徳寺のさらなる繁栄が期待されました。



総会は竹内会長が議長を務め、すべての議案が承認されました。役員人事については笠原紀一様が副会長、関口哲也様が会計監査にそれぞれ就任されました。酒井責任役員からは平成25年度西徳寺会計決算報告がなされ、皆様にご理解いただきました。

総会終了後、西徳寺会館2階「栴檀の間」で懇親会を開き、皆様とともに親睦を深めました。
(木村 専正 記)

山門の言葉



計算ちがいではない 今ここにいることは すべて「わたし」の生活

誰の言葉か分からないが、印象に残る言葉であった。

この言葉は、もしかしたら今の生活に満足している人にはピンとこない言葉かもしれない。それは計算ちがいではなく、計算どおりの私・生活が今現在成り立っているからである。この言葉の指摘を当然のことであるように捉え、疑問に感じないからだ。

では今の生活に不満を抱えているような人は、どのような印象を受けるのだろうか。

「こんなはずではなかった」「そうなるわけがない」というような言葉をよく聞くが、今生活している現実を、どうしても受け取れないでいる。だからこの言葉に納得出来ない印象を受けるのである。

今回の言葉には、事実を受け入れることが出来ない私達に、事実立たれた方々が明らかにして下さったことを喚びかけている言葉である。

現在の生活に満足していたとしても、次々と新たな欲が生まれ、それこそ計算どおりにいかない時には、やはり計算ちがいであると受け入れようとなしな。更には自分自身には問題が無いと思いついてはいるが、非常に厄介である。

ここまで満足している人、満足していない人と分けて話を進めてきたが、実はどちらも同じ立場に立たされているということが大きな問題である。どちらの立場も、自分自身が満足出来るか出来ないかというところで悩まされ、一時的な満足にしがみつこうとしてきた。個人的な満足を追うが故に、不都合な出来事がすべて計算ちがいとなる。驚くようなことだが自分の思いの外に本当の満足があり、すべてが「わたし」の生活になってくることを表した言葉ではないだろうか。

(大橋 伊知郎 記)

目先の情報と欲に目を奪われている
 われらが、お念仏に相応して我執を破
 り闇を晴らす生活をするのは、容易で
 ありません。それは、真実(如来)から呼
 びかけられた、南無阿弥陀仏に、相応す
 るところが欠けているからです。それ
 に気づかれた、曇鸞大師は、自分の思い
 で信じようとする限り三不信になると
 いわれます。三不信とは、「一つは信心
 薄からず、存せるがごとし、亡せるがこ
 ときのゆえに(信心が純朴でないから、
 日頃はありがたいと思っていて、事
 がうまく運ばないともう信じないとさ
 え思う)。二つには信心一ならず。決定
 なきがゆえに(見事な決断がないから、
 念仏一つに徹底しない)。三つには信心
 相続せず、余念間つるがゆえに(自分の
 都合が入ると、信心が長続きしない)。」
 の三つです。

その三不信に自分の姿を見られた道
 綽禪師は、お念仏一つを素直に頂く他
 力の信心は、「淳心・一心・相続心」の
 三信をたまることであると頂かれま
 す。それで、親鸞聖人は「三不信の誨
 殷懃にして」といわれるのです。この懇
 切な禪師のお念仏の教えは、像法(教え
 があり修行する人がいても、さとするこ



どの出来ない時代)、末法(修行の人や
 さとりがなくなつて、教えだけが残る
 時代)、法滅(教えも消滅する時代)の
 人にも通じます。そして、このお念仏

の普遍性は、曇鸞大師の教えに出遇つ
 た禪師の身をあげての伝道、すべての
 人を救おうとする力強い導きによる
 のでした。それで、聖人は「像末法滅
 正信偈の話 36」

松井憲一
 三不信誨懃 像末法滅同悲引 一生造悪値弘誓 至安養界証妙果
 (三不信の誨、懃にして、像末法滅、同じく悲引す。
 一生悪を造れども、弘誓に値えば、安養界に至りて妙果を証せしむといえり。)

同じく悲引す」と讃えられるのです。
 われらは、どれほど平等の関係を願
 っても、「オレが浮かべば、アイツが沈
 む」という間を生きている限り、生まれか
 ら息を引き取るま
 で、悪と無関係に生
 活することは出来
 ません。そして、人
 間のいのちより、経
 済成長を優先する
 社会の流れの中で、
 貧富の差が広がっ
 て心を病む人が増
 え、あきらめの感情
 から暴言が氾濫す
 れば、自分もどのよ
 うな生活になるか
 わかりません。それ
 にもかかわらず、自
 分の考えで何とか
 なるだろうから、と
 りあえずこれで行
 こうと思っていま

す。だから、「一生造悪」は、法律や道徳
 の違反だけをいうのではなく、煩惱の
 身を生きている人間の別名なのです。
 「一生造悪」は、悪いこととしてきた

なあとという、自己反省の内容ではあ
 りません。「一生造悪」は、「一生悪を
 造れども、弘誓に値えば」といわれる
 ように、弘誓(阿弥陀仏の本願)の呼
 びかけに出遇ったからこそ明らかに
 なった、弁解の出来ない私の裸の姿
 なのです。つまり、阿弥陀仏に出遇え
 たからこそ、まことに背き、自分の本
 当の願いを忘れて生きてきたことが、
 露わになった五体投地を、「一生造
 悪」というのです。
 それで、聖人は「一生悪を造れども、
 弘誓に値えば、安養界に至りて妙果
 を証せしむといえり」といわれます。
 「安養界」は、浄土のことですが、それ
 はどこかにある世界ではありません。
 安養界は、弘誓に出遇つて、開かれる
 新しい生活であり、世界です。「安養
 界に至りて妙果を証」する「妙果」は、
 阿弥陀仏の世界ですから、われらが
 作った世界ではありません。弘誓が
 いたり届いて、南無阿弥陀仏と夢か
 ら覚めたわれらに、将来する世界で
 す。それで、弘誓に値遇すれば、造悪
 の身にも、すべてに意味を見いだす
 ワンダフルな生活が生まれ、開かれ
 ていくといわれるのです。



掲示板

平成26年 8月

9日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
13日(水)～16日(土) 孟蘭盆会
30日(土) 午後3時半 混声合唱団「エコー」練習
31日(日) 午後5時 青年会主催バーベキュー大会

夏だ! バーベキュー!

(青年会主催バーベキュー大会のお知らせ)

暑い日が続きますが、夏の思い出にバーベキューをしませんか?焼肉や焼きそば、ビールにジュースはもちろん、花火やかき氷も用意してお待ちしております。ぜひ、ご家族やお友達などお誘い合わせの上、お越しください!

なお、皆様からいただいた参加費は東日本大震災の義援金として福島県自治体に寄付する予定です。

8月31日(日) 17時より開催(20時終了予定)

参加費: 大人 2,000円、小人 1,000円 (小学生未満無料)

城北ブロック会・聞法会

去る6月29日(日)、川口文化センターリリアにおきまして、城北ブロック会総会・聞法会を開催しました。関川恒雄会長が議長に選任され、17名の参加者のもと、総会はずべての議案が満場一致で承認されました。

また今年度は役員改選の年にあたっており、新会長として中条啓助様が就任されました。新会長からは、皆さんと共に城北ブロックを盛り上げていきたいという心強いご挨拶をいただきました。

聞法会では、私たちは生まれながらにして、どこまでも満足することのできない煩惱を抱えて生きている。また自分勝手なものさしを基準としてしか、物事を判断できない。そんな不平等なものさししかもちあわせていない、その我が身を照らし出してくださるのが、阿弥陀仏の智慧と慈悲のはたらきであると教えていただきました。

次回は平成26年11月16日(日)、大塚・大和田におきまして聞法会を開催します。大勢の方の参加をお待ちしております。

(蓮井 邦宗 記)



編集後記

8月は葉月ともいわれ、新暦では9月上旬から10月上旬の秋にあたるため、葉の落ちる月「葉落ち月」が転じて「葉月」になったという説や、北方から雁が初めて来る月ということから「初来月」、稲穂が張る月「穂張り月」などから「葉月」となったという説もあるようです。

暦の上では立秋、秋の気配が現れてくるといわれますが、これからも厳しい暑さが続くと思われまます。体調管理にはくれぐれもご注意ください。(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス:

<http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。(メールでも結構です)

saitokuji@ce.wakwak.com

えこお志お礼

ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

台東区 杉平 光司 様
千代田区 塚本 春雄 様

日誌

6月18日 婦人会聞法会「釈尊伝」に聞く
6月21日 定例聞法会
6月24日 『唯信鈔』に聞く(第6回)
講師 宗 正元師
6月27日・28日 宗祖忌
6月29日 城北ブロック会総会・聞法会
(川口リリア 参加者20名)
7月3日・4日 本山式務衆講習会
(岸本住職・蓮井・仲井 参加)
7月5日 混声合唱団「エコー」練習
同行会「現代の聖典」に聞く
法話 大谷 義博
7月7日・8日 中興忌
7月13日～16日 孟蘭盆会